

文 ビクター・サントス
絵 アンナ・フォルラティ
訳 金原 瑞人

せ かい
もし、世界に

わたしが

いなかったら

西村書店



unesco





もし、^{せ かい}世界にわたしが
いなかったら

WHAT
makes
us
human

What Makes Us Human

Text © 2023 Victor Dias de Oliveira Santos

Illustrations © 2023 Anna Forlati

Original design by Daniel Cabral

Originally published in Brazil as O Que Nos Faz Humanos

© 2023 Abacatte Editorial

Publication rights arranged through Syllabes Agency, France

English-language translation © 2024 Victor Dias de Oliveira Santos

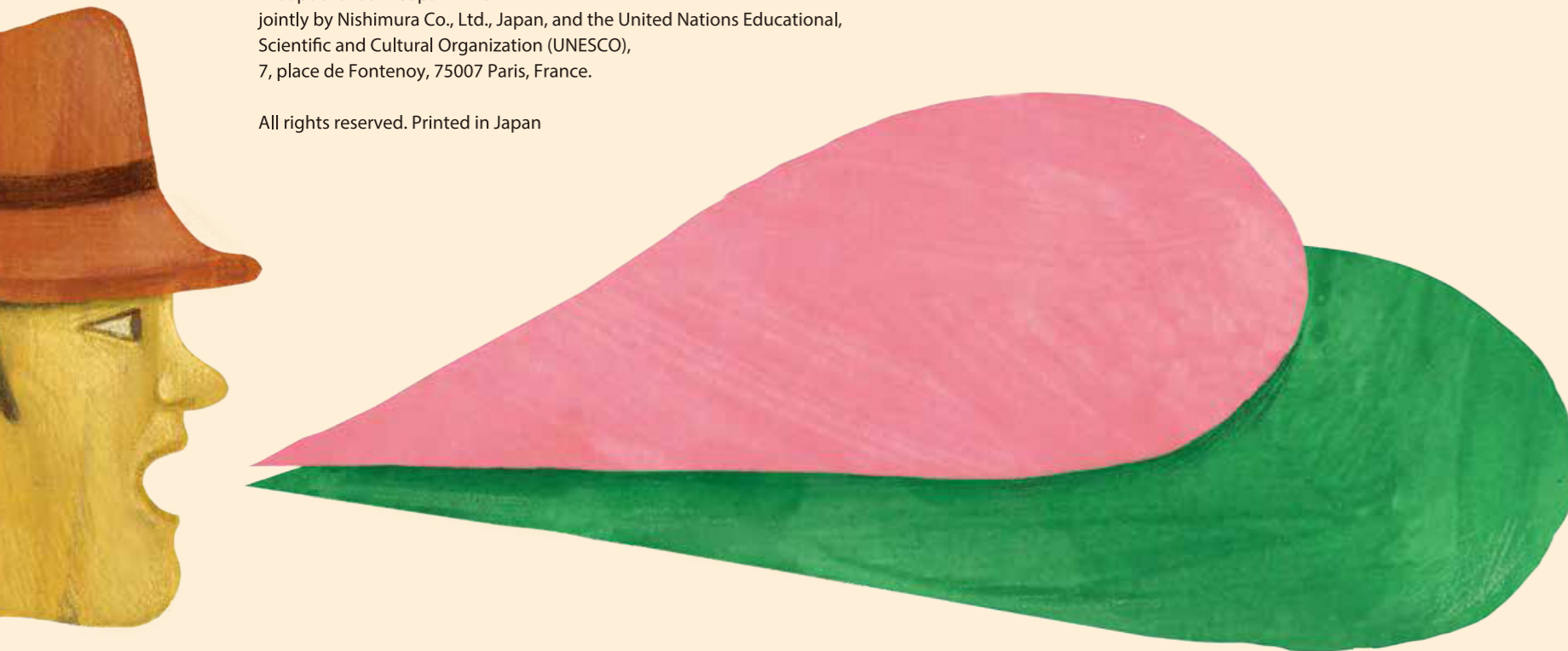
This edition © 2024 Nishimura Co.,Ltd. and UNESCO

First published in Japan in 2024

jointly by Nishimura Co., Ltd., Japan, and the United Nations Educational,
Scientific and Cultural Organization (UNESCO),

7, place de Fontenoy, 75007 Paris, France.

All rights reserved. Printed in Japan



本書の出版から1年後に、本コンテンツの電子ファイルはCC-BY-NC-ND 3.0 IGO ライセンスの条件下で利用可能になります。このライセンスでは、各ページに「Not for commercial use (商業利用不可)」という透かしが入り、元の情報源が適切に引用され、各受信者はCC-BY-NC-ND 3.0 IGO ライセンスの条件下でのみ本作品を利用できることを前提に、本作品の利用と再配布が許可されます。国連教育科学文化機関(UNESCO、以下ユネスコ)および共同出版者(西村書店)のクリエイティブ・コモンズ・表示-非営利-改変禁止 3.0 IGO (CC-BY-NC-ND 3.0 IGO) ライセンス (<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/igo/>) からの事前の許可がない限り、商業的な再配布および二次的著作物の創作は認められません。本書のコンテンツを利用することにより、利用者はユネスコのオープンアクセス・リポジトリ (<https://www.unesco.org/en/open-access/cc-nc-nd>) の利用規約に拘束されることに同意するものとします。

本出版物に使用されている名称および資料の提示は、いかなる国・領土・都市もしくは地区、またはいかなる権限をもつ組織であれ、それらの法的地位に関すること、または境界線や国境の位置づけに関することについて、ユネスコの見解等を示すものではありません。

本出版物で表明されている見解は作者のものであり、それらは必ずしもユネスコの見解と一致するとは限らず、またユネスコに付託するものではありません。

もし、世界に わたしが いなかったら

WHAT
makes us
human

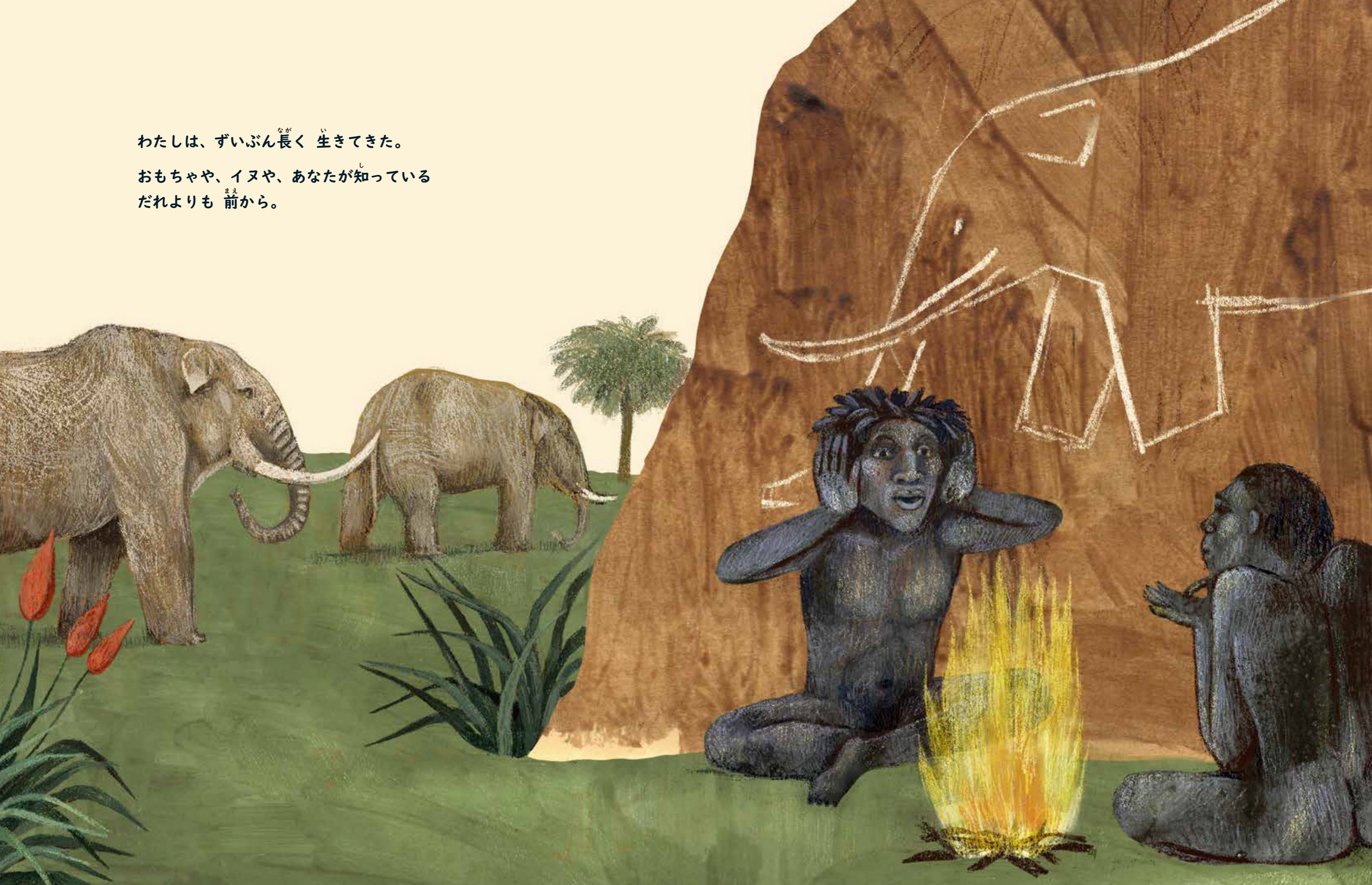
文 ビクター・サントス 絵 アンナ・フォルラティ 訳 金原 瑞人

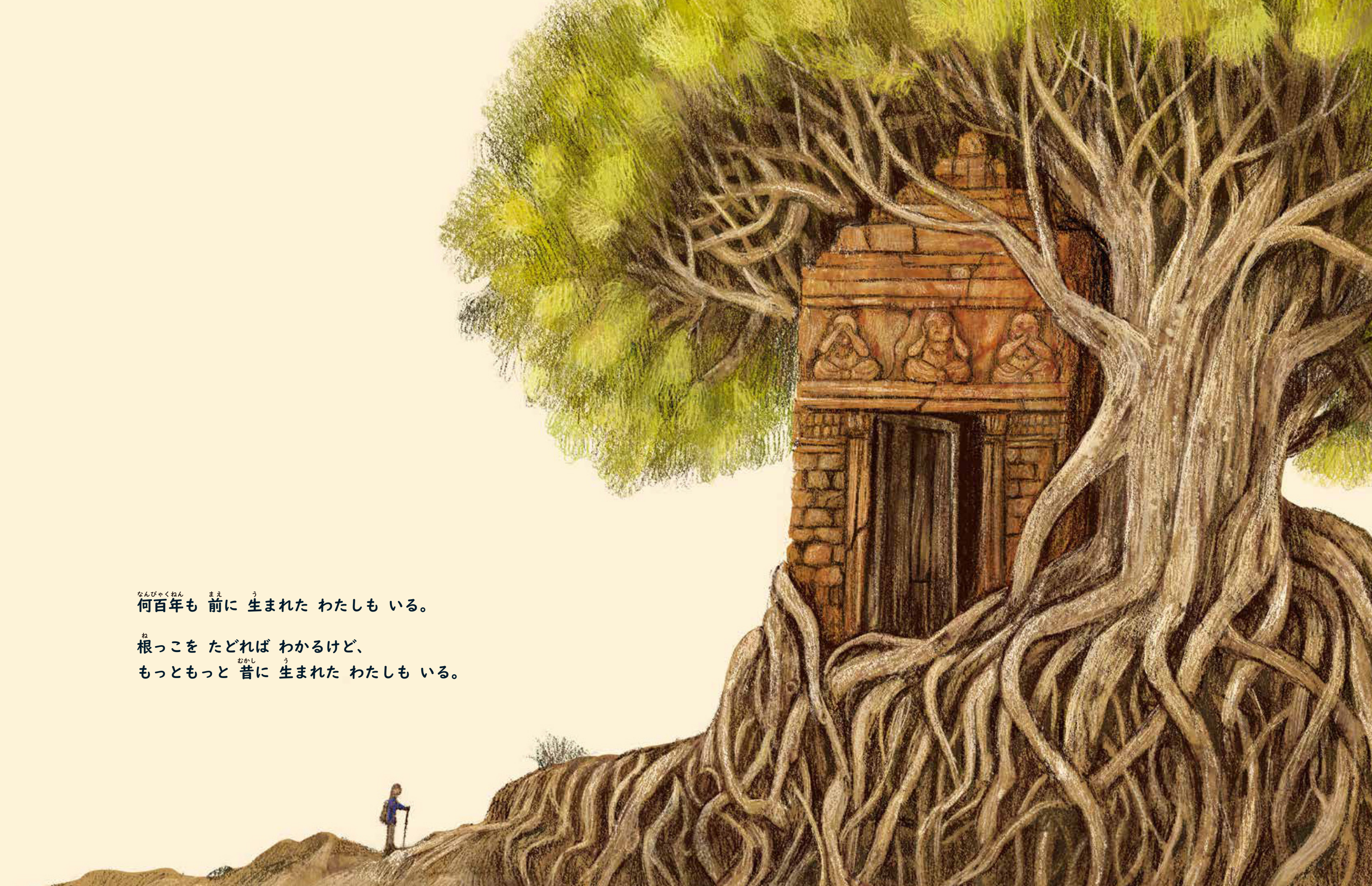


西村書店

わたしは、ずいぶん^{なが}長く ^い生きてきた。

おもちゃや、イヌや、あなたが^し知っている
だれよりも ^{まえ}前から。





なんびゃくねん まえに うまれた わたしも いる。

ねっこを たどれば わかるけど、
もっともっ むかしに うまれた わたしも いる。



わたしは どこにでも いる。
いなかにも、都会とかいにも、学校がっこうにも、家いえにも。

ほら、^{きょう}今日も、^あ会った。
^き聞こえたでしょう？ ^{かん}感じたでしょう？



あなたは ^{あか}赤ん坊のときは、
わたしのことを ^し知らなかった。

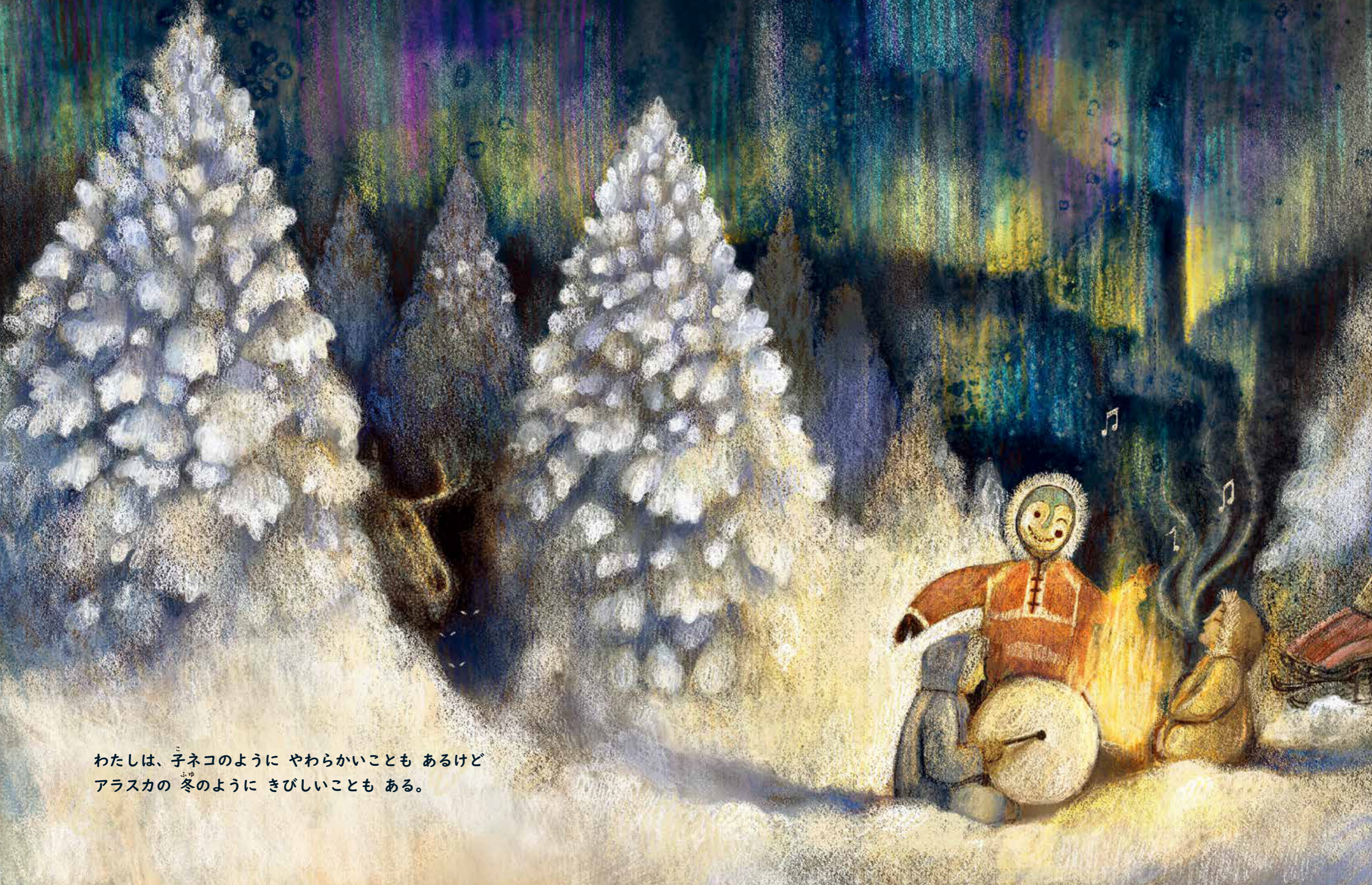
そのうち、^{すこ}少しずつ ^{すこ}少しずつ
わかるようになってきたはず。

でも、^{とし}年をとると、わたしを
わすれはじめる。



わたしからはなれようとする ^{ひと}人も いるけど
わたしを ^{あたま}頭のなかから ^お追いだすことは できない。





わたしは、子ネコのように やわらかいことも あるけど
アラスカの冬のように きびしいことも ある。



愛をつたえることもあれば、傷つけることもある。





さいしょ
最初、わたしはひとりだった。

でも、いまは、いろんな形に、いろんな姿に なっている。

世界じゅうに、何千もの わたしが いて
若い わたしも いれば、老いた わたしも いる。





またたく間に消えていくわたしもいる。

あなたがおとなになるころには、
たくさんのわたしがいなくなっているでしょう。




ひとりのわたしが消えると、ひとつの文化が消える。
世界をどう見るか、どう考えるか、それが文化。

その文化が、消えて、なくなってしまう。



わたしをひとりしか知らない人も、ふたり知っている人も、
もっと知っている人も いる。いろんなわたしを知っていると、
いろんな世界を見ることができる。

世界のとびらをたくさん開けることができるし、
たくさんの人に、とびらを開けて、とお願ひすることができる。



わたしほど 素晴らしい^{はつめい}発明は ないと ^{おも}思う。
わたしが いなければ、いろいろなものが なかった。
たとえば、^こ子どもの^{ほん}本とか。ほら、^{だいす}大好きでしょう？

わたしは あなたを、つれて行って あげられる。

過去へ、^かこへ、^{いま}現在へ、^{みらい}未来へ。





わたしが いるから、^{ひと}人が ^{ひと}人になる。





Catalanà

عربي

Ελληνικά

Magyar

Português

o/Maa

አማርኛ

עברית

ESPAÑOL

Ἑσῶνικά

アイヌ・イタク

اَلعَرَبِيَّة

한국어

A'uwẽ

わたしは、言葉。

DEUTSCH

ITALIANO

Esperanto

Gaeilge

ภาษาไทย

Українська

te Reo Māori

Dine Bizaad

中文

EUSKARA

हिंदी

Ελληνικά

読者のみなさんへ

いま世界で使われている 7,164 (Ethnologue【少数言語研究団体のウェブサイト】2024 年版) の言語のうち少なくとも半分は、2100 年までになくなると考えられています。ひとつの言語が滅びると、文化もいっしょに滅びてしまいます。

言語がひとつなくなるたびに、人類は貴重なものをなくします。人が人であるために欠かせないものが失われるのです。その言語を使う人たちが言葉にして育んできた、文化的、地理的、植物学的、哲学的な知識が永遠に失われてしまうのです。

言語には話し言葉、書き言葉、手話があります。文字によって言語を書きとめるという方法は、その言語の過去を保存し、未来に伝えるための最善の方法です。しかし世界の言語のうち、文字で書きとめることができるのは 57% に過ぎません。さらに悲しいことに、文字で書きとめることのできる言語のうち (いくつかはこの本でも見られます) 85% が消えかけているのです (Endangered Alphabets Project【絶滅危惧文字プロジェクト】2024 年版)。

どの言語も大切です。どの文字も大切です。どの文化も大切です。言語、文字、文化が多ければ多いほど、わたしたちは人として豊かになります。この絵本は、世界の言語、文字、文化が織りなす美しいタペストリーへのやさやかな拍手であり、それをささえてくれている人々へのやさやかな声援です。

*本書の販売による著者の印税の一部は、世界の言語を保存し、滅んだ言語の復活に取り組んでいる団体に寄付されます。

ビクター・サントス、アンナ・フォルラティ

ユネスコからのメッセージ

サプタリヤ地方のタルー語 (Saptariya Tharu) では、母親を「メヤ」と書くことを知っていましたか。この言葉は「マイヤ」と発音します。また、「リンド (lind)」はラトビアで話されていたリヴォニア語 (Livo) で「鳥」という意味です。マオリ語 (te reo Māori) では、「遊ぶ」ことを「キ・テ・タカロ (ki te tākaro)」といいます。言葉を学ぶとき、その言葉を使っている人々や生活について知ると理解が進みます。

ユネスコ (国連教育科学文化機関) は、言葉がどんなに大切か知ってもらおうと、2022 年から 2032 年を「先住民言語の国際の 10 年」にすると宣言しました。この期間、ユネスコは先住民の言語を保存し、使う人を増やし、世界に広めていきます。先住民の言語の多くは絶滅の危機にひんしています。わたしたちは、こういった言葉をわたしたちの未来の一部として伝えていく必要があります。

文 **ビクター D. O. サントス** (Victor D. O. Santos)

児童書の作家、博士 (言語学)。今までに 6 カ国で暮らし、10 の言葉を学んできた。英語で書いた最初の作品『My Dad, My Rock』(未邦訳) は 2022 年のカーカス・ベストブックに選ばれた。ブラジル出身で、現在はアメリカのアイオワ州デモインに在住。ウクライナ人の妻との間にふたりの子どもがいる。ふたりはいくつもの言葉を話し、いくつもの文化を知っている。

インスタグラム : @linguacious.llc / 公式サイト : authorvictorsantos.com

絵 **アンナ・フォルラティ** (Anna Forlati)

アーティスト、イラストレーター。『Yoga for Kids』や『My Dad, My Rock』(いずれも未邦訳) の絵を描いている。本書『もし、世界にわたしがいなかったら』は「dPICTUS 未刊絵本ショーケース」で注目され、ポローニャ国際児童図書展で展示された。高校から大学まで古代ギリシア語とラテン語を学び、今はアラビア語を学んでいる。イタリアのトリノ在住。公式サイト : annaforlati.com

訳 **金原瑞人** (かねはら みずひと)

1954 年岡山市生まれ。法政大学教授・翻訳家。訳書は児童書、ヤングアダルト小説、文芸書、ノンフィクションなど 600 点以上。訳書に『不思議を売る男』『青空のむこう』『月と六ペンス』『どこまでも亀』『ニューベリーの物語』『男の子でもできること』、エッセイ集に『翻訳家じゃなくてカレー屋になるはずだった』『サリンジャーにマティーニを教わった』、監修に『13 歳からの絵本ガイド』、日本の古典の翻案に『雨月物語』『仮名手本忠臣蔵』など。公式サイト : kanehara.jp

もし、世界にわたしがいなかったら

2024 年 5 月 15 日 初版第 1 刷発行

文 ビクター D. O. サントス 絵 アンナ・フォルラティ 訳 金原瑞人

発行者 西村正徳 発行所 西村書店

東京出版編集部 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-6

TEL 03-3239-7671 FAX 03-3239-7622 www.nishimurashoten.co.jp

印刷 三報社印刷株式会社 製本 株式会社難波製本

ISBN978-4-86706-049-0 C8798 42p

ISBN978-4-86706-049-0
C8798 ¥1800E
定価[本体 1,800 円+税]



9784867060490



1928798018009



unesco
国連教育科学文化機関